



# 「きんかんドロップ、入荷ありません」に込めた、見守る思い

薬を渡すだけではないのが、ゆう薬局。京都市北区にあるゆう薬局の管理薬剤師Aさんは、こんなエピソードを教えてくださいました。

近くの70代の田中さん（仮）は、月に1、2度ゆう薬局を訪れます。薬局に置いてあるきんかんドロップをいたく気に入って、薬の処方の際にいつも1袋、購入するようにになりました。ところが変化が起きました。田中さんがきんかんドロップを買う量と頻度が増えていくのです。1度に2袋、3袋と増えて、多い日は5袋。ドロップだけを求めて来店する日もあるほどです。

その様子に気付いたかかりつけ薬剤師のAさんは、田中さんの記録を見直しました。糖尿病などの口が乾く症状や、認知機能に影響がある薬が無いかを疑ったのです。しかし、田中さんにはそのような副作用が考えられる薬は出ておらず、訴えもありませんでした。「でも1度に5袋は、常軌を逸している。健康を害する前になんとかしないと」。

本人に説明するも理解してもらえず、医師と協議するか、など考えを巡らせるAさん。

ちょうどそのとき、薬局の自動ドアが開きました。現れたのは田中さんと同居する娘さん。娘さんもまた、ゆう薬局がかかりつけの患者さんだったのです。思い切ってAさんが話すと「実は、私も母のきんかんドロップに悩んでいて」と思いがけない娘さんの返答。「母に注意しても、私の話はちっとも聞いてくれないんです」。

そこでAさんと娘さんは相談して、田中さんにきんかんドロップを売る数を2袋に制限することに決めたのです。田中さんが来店しても「きんかんドロップ、入荷ありません」と説明するうちに、気持ちが落ち着いたのでしよう。以前の購入ペースに戻ったのでした。「商品売るよりも、母の身体を気遣ってくれてありがとう！」。

娘さんから涙目で感謝され胸が熱くなったと、Aさんは振り返ります。今は状態が落ち着いていますが、各種検査値などを心配しながら見守っています。お客さまの健康を想うことは、ゆう薬局で働く薬剤師にとって、ごく自然なことなのです。

## ゆう薬局 ハンケイ500m 物語

vol. 01

なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。



### 豆知識

#### 口の渇きと薬の影響について

風邪薬・睡眠薬など、口の渇きを副作用にもつ薬は膨大。一方、自己判断で止めてしまうのも危険。口の渇きが気になる際は、薬剤師にも是非ご相談を。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)  
📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♀️🚶🏻♂️  
もよりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ  
“サウンド版ハンケイ500m”  
の番組内にて、ゆう薬局の  
ラジオドラマを放送中!

毎週土曜17時~18時!